

スペインサッカーにおける地域性 Regionality in Spanish football

1K06B094

小関 洋人

指導教員 主査 リートンプソン先生

副査 太田章先生

【序章】

筆者は昔から海外のサッカー、特にスペインのリーガ・エスパニョーラの魅力に惹かれていた。この論文を書くきっかけとなったのは、スペイン・リーグの中でも一番注目度の高い伝統的一戦、レアル・マドリード対FC バルセロナのエル・クラシコを観戦しているときである。筆者が目撃したのはFC バルセロナからレアル・マドリードへ移籍したルイス・フィーゴに対するバルセロナサポーターからの激しいブーイングと無数のごみなどが投げつけられていた。そのあったのはルイス・フィーゴに対する明らかな「憎しみ」や「怒り」。その光景は衝撃的であり、民族的なアイデンティティを感じたため、上記の2チーム以外にも焦点を当て、スペイン・サッカーを歴史的な観点から探ってみようというのが本論文の目的である。

【第1章】

この章ではナショナルチームとしてのスペイン・サッカーの現状をまとめている。レアル・マドリードやFC バルセロナなど、リーグとしては世界最高峰であるスペインであるが、ナショナルチームとしての過去に目立った成績を残していなかった。ユーロ2008で優勝し、国としてのナショナリズムをより強いものにしたい一つの国としてのスペインについてまとめているが、一方で存在する民族主義者たちが起こす事件にも触れ、民族的な争いやギャップが未だに存在するという事実にも言及している。

【第2章】

産業革命と共に、フットボールがアソシエーション式とラグビー式に分かれ、サッカーが労働者を通じてイギリス中に普及し、スペインのリオティントやウエルバに渡ってきた経緯をまとめている。さらに歴史の深いレクレアティーボとその後に創設されたビッグクラブの飛躍の差などにも言及している。

【第3章】

スペインの政治的歴史を、20世紀以前と20世紀以降の2つに分けてまとめている。終盤では特に独立に対する意識の高いとされるバスク地方に焦点を当て、2003年にレガンダリであるイバレチェが自治権の拡大を求める「イバレチェ提案」などにも触れ、バスクの地域性を政治的側面から探っている。

【第4章】

この章では、バスク地方を代表するチームであるアスレティック・ビルバオの創設から飛躍するに至るまでの経緯を中心に、FC バルセロナやレアル・マドリードについても触れている。また、バスク人によって創設され、マドリードを拠点とするアトレティコ・マドリードの創設から現在までをまとめており、スペインにおけるサッカーと民族の関わり合いについて言及している。

【考察】

スペイン・サッカーの歴史を探っていく中で、

日本のサッカーにはない民族的な関わり合いが選手やサポーターを含めたチーム全体の勝利への執着心に繋がっているということを感じた。経営の仕方や、一つのエンターテインメントとして楽しめるスペイン・サッカーだが、一方でそれは歴史的な事実をサッカーというメディアを通じて現在、そして未来へと語り継ぐ一つの文化遺産であるという結論に至った。